

よむよむNEO

No.1

R2.4.14(火)

おーい！みんなー！
元気ですかー！



だから、自分のロールモデル(なりたい自分のお手本)を持ってとても大事なこと。そしてロールモデルは、物語やマンガの中にもたくさん見つけることができますよね。

たとえば私の憧れの人「守人シリーズ」の主人公バルサだったら今の世の中のありさまを見て何を考えるでしょうか。用心棒として絶えず命のやりとりをしてきた彼女なら自分の守るべき一番大切なものがきちんと見えているはず。あわてたりうろたえたりせずに静かに短槍の腕を磨いていそ



みなさんの大好きな物語のヒーロー、ヒロインはだれですか？彼らならこんな状況の中でどう考えふるまうでしょうか。たくましい想像力でつらい孤児院生活をのりこえてきた赤毛のアンや「あしながおじさん」のヒロイン、ジュディならこそぞ、という感じで本領発揮。お得意のイメージで毎日を楽しく生きていくすべをうまく見つけていることでしょう。「暗号クラブ」のコーディーたちは、メンバーが集まれなくなってもICTや暗号を駆使して何かおもしろいゲームを始めているかもね。「科学に解けないナゾはないよ」が決めゼリフの謎野真実くんはどうしているでしょう。科学に強い彼なら、きっと説得力のあることばで不安になっている仲間を元気づけているかな。



じゃあ「いみちゃん！」のモモだったら？「ハリー・ポッター」のダンブルドア校長先生だったら？「鬼滅」の炭次郎や煉獄さんだったら...？みなさんの想像力の使い道はこんなところにもあるですよ。

だから、橘、子のみなさん、時間があるのなら、本を読みましょ。できるだけたくさん本にふれて、たくさんすてきな人に出会いましょ。

...というわけでしばらく「よむよむNEO」におつきあいくださいな。

(ああ、学校が呼吸をしている...) 4月7日の朝、橘小のエンタランスに満ちたあの空気を、あのときの気持ちを、何と呼べば良いのでしょうか。橘、子あての橘小、子どもたちあての私たちなのだとして鮮烈に感じました。

「あるべきものをあるべき場所に」
怪盗グリフィン (by 法月麟太郎) のモットーを、思いがけずかみしめた私です。

本の世界からロールモデルをさがそう

私の大好きな小説「夏の庭」(湯本香樹実・作)の一場面です。物語の終盤、6年生の川辺は、ひとりぐらしのおじさんとのかけがえのない心の交流と別れを経て、人生の大きな選択をします。川辺の決意におどろく仲間。そのとき彼は言うのです。

「考えたんだ。もしおじさんだったら、なんて言うかなって。」

それを聞いて、主人公の「ぼく」も川辺に深く共感します。

「『もしおじさんだったら』と考えると、自分ひとりでくよくよ考えているよりずっと、すっきり答えがでてくる。

それは思い出に生きているなんていうのとはちがうも、と確かな手応えがある感した」...



自分が心から信頼している人やあこがれている人の目になって物事を見る。「もし〇〇だったら、こんなときどうするだろう...?」

この「なりきり術」は考え方や行動に迷ったとき、おおいに助けてくれる方法です。ふれない価値観で、自分を最適解へ導いてくれます。